

登山シーズン開幕！！

宝仏山 山開き

町内最高峰「ほうぶつさん宝仏山」

登山道開設から国立公園編入を経て、これからも多くの登山愛好家を魅了する山へ



山頂からは、残雪美しい大山を望む。登山者はこの景色に癒される

町の春の風物詩 宝仏山はわが町の『宝』

町内の最高峰、『宝仏山』（標高1005m）の登山シーズン開幕を告げる山開きが、4月29日、ごうぎんすぎの子会（冥賀宏忠会長）が主催し、登山道入口の町歴史民俗資料館前で開かれました。

当日は、町内外の登山愛好家ら約50人が参加。山の安全を祈願する神事が行われ、主催者を代表し、ごうぎんすぎの子会会員の佐々木秀明さんが「多くの人の力により山開きができます。今年は例年になく4月上旬まで雪がありました。前日も雨が降り、足元が悪いので気を付けて楽しんでほしい」とあいさつ。また、町内で活動している「合唱団おしどりたち」の皆さんが大



宝仏山に登る人の安全を願う

山賛歌を歌い、山開きを祝いました。会場では、資料館友の会による休憩所が設けられたほか、セルプひのによるバザーも行われ、登山客との交流を楽しみました。

晴天に恵まれた山開き。スギやマツなどが植林された人工林の静けさ、ザクツ、ザクツとひと足ごとに落ち葉を踏みしめる音が楽しい雑木林など、飽きることのない登山道を登った頂上では大山や美保湾などが一望でき、感動しました。

米子市から訪れた登山客は、「この景色が見たくて毎年来ています。大山側も良いが金持側の山々も美しい。次は朝刈の登山道に挑戦してみたいです」と息を弾ませ、境港市からの登山客は、「初めて訪れました。こんなに大山がきれいに見えるなんて。来て良かったです」と笑顔で話しました。登山客が絶えない宝仏山は町の宝です。



「大山賛歌」を全員で歌う。登山前に力が湧いてくる



金持朝刈の登山道で、落差およそ 15 m の大きな滝を見ることができる



小さな子も頑張って登った



景色に見とれる登山客（金持側の山々）

登山道を守る力が支えとなり、 山開きは行われる

4月21日に会員が整備作業を実施

登山道の確認と登山者の安全を確保するため、山開きを1週間後に控えた4月21日、登山道の整備作業が行われました。

当日は、雲一つない晴天。朝8時に金持神社に集合して、ごうぎんすぎの子会の西川康志さんと、金持自治会の若林太一さん、梅林義一さんが朝刈側の登山道から入りました。

今年の冬は豪雪に見舞われた山陰地方ですが、登山道もその影響がいたるところに見られ、雪の重みで折れた木の多さに驚きました。登山道をふさぐ木、隣の木にもたれてる木、途中で折れ、ぶら下がっている枝などをチェーンソーを使って伐採して危険がない場所まで片付け、また、生い茂る笹を刈り道を出しました。

作業中は、「この木は腐れている



登山客を案内する看板をかけ直す



多くの木が、雪害により倒れていた。

なあ。取り除かないと危ないぞ」、「この木は残しておこう。多少、支えがないと登れないぞ」と確認し、作業の一つ一つが登山客の安全を思い、気持ちよく迎えたい思いで精を出します。

また、作業中には、春の訪れを待っていた登山客と出会いました。「これからが大変ですよ、気を付けて」、「いい天気ですね、作業ご苦労さまです」と交流もありました。

登山道は、平成11年にごうぎんすぎの子会が開設。平成14年には大山隠岐国立公園に編入されました。登山道は、根雨の町歴史民俗資料館が入口となっているほか、金持朝刈から入るルートも整備されています。資料館側からはスギなどの人工林やブナの原生林が続き、朝刈側からは美しい沢の流れとせせらぎを楽しめます。どちらも豊かな景観と自然が残されており、手つかずの自然を満喫することができます。最近は大形バスでのツアー客も増えています。